



遠藤れい子ひまわりレポート

○遠藤れい子事務所 〒940-0052 長岡市神田町3丁目1-3 ☎ 0258-32-1741 fax 0258-32-6443
○県議会執務室 〒950-0965 新潟市中央区新光町4-1 県議会内 ☎025-280-5475

たっぷり学んだ自治体学校2日間

テーマ 憲法を活かし 地方自治が息づくまちづくり

をいただきました。
第6分科会(遠藤れい子)「循環型地域づくりの重要性と実践例 いかに地域経済を見て、取り組みにつなげるか」に参加しました。
6つの地域の取り組みが報告されました。地域の困ったを何とかしなければと、熱い思いを持った人々が賛同し、協力する住民の輪を広げ、行政とともに身の丈に合った施策を実践すれば地域循環管型の地域は作れる。限界集落に広がる耕作放棄地にそばを植え、製粉所を作り、そば祭りも開催し、人を呼び込み輪を広げていった事例。



7/23 松本城が迎えてくれました

7月23日 24日「憲法を活かし地方自治が息づくまちづくり」をテーマに開かれた自治体学校。遠藤れい子県議と竹島良子元県議から、参加報告

講師は、地域の「身の丈に合った」が重要だ。観光客誘致のホテルを作って従業員確保できなく、一部しかオープンできなかった失敗例。大企業誘致するも地元労働者が確保できない例。大型公共事業は大手企業にお金が落ちるが、地元には落ちない例。
地元で働き地元にお金を落とす地域循環型が重要だ。福祉や介護などは地元の人雇用拡大になり、地元困ったに対応できる。こうした取り組みが大事だとまとめられ、大変元気が出ました。

第2分科会(竹島良子)「医療と公衆衛生体制の強化を考える」に参加しました。北海道から徳島まで全国各地の議員など40数名が参加。それぞれの地域で起きている医療再編統合、民営化の実態や、それを跳ね返す住民運動が起きている実態、医療機関との懇談で連帯が生まれている実態など活発に報告されました。国の政策の中で

起きている厳しい現状はありませんが、それに負けない住民運動も起きていることに勇気が湧いてきます。
保健所の再編策によって保健所削減や体制が縮小され、公衆衛生機能が弱体化されています。新型コロナウイルス感染症の拡大に対応しきれない保健所現場の業務実態もこもも語られました。月100時間を超える残業、陽性者への健康観察

もままならない状況、家族への感染を恐れて家に帰らず宿泊施設で過ごすなど。現場で必死に働く保健師の姿に切なくなると同時に、効率優先ですすめる政策の行きつく先は、市民も医療者も幸せにするものではないことを痛感しました。
政治の転換が必要です。社会保障政策の充実に向けて自治体への働きかけを今後も行っていこうと思います。

全国紙一面トップを飾る

生活と健康を守る新聞(全生連中央機関紙) 7月3日(日)号の一面トップに、新潟県生活と健康を守る会が6月17日に新潟県福祉保健総務課と交渉した模様が掲載されました。

※新潟県生連の代表の皆さんと遠藤れい子県議(中央マスク姿)の写真がドーンと1面に。



安倍元首相の「国葬」には反対します。しかし、国民の中には、安倍政権の評価について賛否があります。岸田政権の「国葬」には反対します。